

弥生時代の方形周溝墓：京都府京田辺市南垣内遺跡

長 友 朋 子
上 野 あさひ
金 井 千 紘
軽 野 大 希

はじめに

京田辺市南垣内遺跡は、1992年に京田辺市により発掘調査がおこなわれた。その際に見つかった方形周溝墓からは多くの土器が検出され、注目を集めた。発掘調査の後に整理作業が進められ、執筆者の一人である長友朋子が図化する機会を得た。長く公表する機会がなかったが、この度京田辺市のご厚意で報告することとなった。報告に際しては、金井千紘が遺構図の図面を再整理し、軽野大希が土器の実測図を一部加えてトレースをおこない、長友がこれを監修した。

I 位置と環境

1. 自然環境

南垣内遺跡は南山城地域にあり、現在の京都府京田辺市草内南垣内・西垣内に所在する。南山城地域では、北流する木津川により南北に長い平野が約 18 km にわたり形成されている。その中央あたりで、木津川は独立した飯岡丘陵にぶつかり、東へ迂回するため、木津川左岸にはやや広い沖積平野が形成される。その平野を田辺丘陵から木津川に向かって普賢寺川が流れ、南垣内遺跡は、普賢寺川の北の緩傾斜地に位置している。遺跡範囲は南北約 0.7 km、東西 0.4 km にわたり、標高は約 25 m である。

2. 歴史的環境

旧石器時代の遺跡としては市内南部の山間部地域に所在する高ヶ峯遺跡が知られており、サヌカイト製石核が1点出土している。縄文時代は、縄文時代中期末の薪遺跡（37）が集落遺跡として知られており、隅丸方形の竪穴建物や土壙群などが発見されている。また、南部の三山木遺跡（53）からは縄文時代晩期の土器類が出土しているほか、三山木遺跡の南西に位置する山崎遺跡（57）からは、明確な遺構は検出されていないが、石棒や異形石製品が出土している。

弥生時代になると、縄文時代に比べて遺跡数が増加する。市中部からやや北寄りに位置する稲葉遺跡（33）では方形周溝墓を検出し、一辺約 11.5 m の規模を有する。周溝から出土した土器から、時期は前期後半のものとされる。他にも、宮ノ口遺跡、宮ノ下遺跡（55）、三山木遺跡（53）などで前期の遺構・遺物が確認されている。弥生時代中期では田辺城下層（15）で竪穴建物が、市南部では南山遺跡（68）から竪穴住居が 16 棟確認されている。後期になると飯岡遺跡（45）や、京都府指定史跡で銅釦や鉄製品が出土した田辺天神山遺跡（71）など、丘陵部で多く遺跡が見つかったりしている。



- | | | | | | |
|--------------|------------|-------------|--------------|--------------|-------------|
| 1. 南垣内遺跡 | 2. 草路城跡 | 3. 宮ノ後遺跡 | 4. 大切遺跡 | 5. 鍵田遺跡 | 6. 興戸城跡 |
| 7. 興戸宮ノ前遺跡 | 8. 興戸6号墳 | 9. 興戸7号墳 | 10. 興戸8号墳 | 11. 興戸9号墳 | 12. 興戸丘陵東遺跡 |
| 13. 田辺遺跡 | 14. 竹ノ脇遺跡 | 15. 田辺城跡 | 16. 田辺奥ノ城1号墳 | 17. 田辺奥ノ城2号墳 | 18. 興戸丘陵西遺跡 |
| 19. 興戸5号墳 | 20. 興戸4号墳 | 21. 川原谷遺跡 | 22. 興戸宮ノ前窯跡 | 23. 酒壺古墳 | 24. 興戸1号墳 |
| 25. 興戸2号墳 | 26. 興戸遺跡 | 27. 興戸廃寺 | 28. 郡塚古墳 | 29. 河原遺跡 | 30. ニケ池遺跡 |
| 31. 小欠古墳群 | 32. 天理山古墳群 | 33. 稲葉遺跡 | 34. 伝道林遺跡 | 35. 東神屋遺跡 | 36. 棚倉孫神社遺跡 |
| 37. 薪遺跡 | 38. 飯岡車塚古墳 | 39. グログロ山古墳 | 40. 薬師山古墳 | 41. 飯岡東原古墳 | 42. 金泥山古墳 |
| 43. 飯岡1・2号横穴 | 44. 弥陀山古墳 | 45. 飯岡遺跡 | 46. 大將軍遺跡 | 47. 橋折遺跡 | 48. 古屋敷遺跡 |
| 49. 遠藤遺跡 | 50. 野神遺跡 | 51. 田中東遺跡 | 52. 東角田遺跡 | 53. 三山木遺跡 | 54. 直田遺跡 |
| 55. 宮ノ下遺跡 | 56. 上谷浦遺跡 | 57. 山崎遺跡 | 58. 山崎1号墳 | 59. 山崎2号墳 | 60. 山崎3号墳 |
| 61. 芝山遺跡 | 62. 西羅遺跡 | 63. 木原城館跡 | 64. 田中西遺跡 | 65. 二又遺跡 | 66. 口駒ケ谷遺跡 |
| 67. 南山城跡 | 68. 南山遺跡 | 69. 口駒ケ谷古墳 | 70. 七瀬川遺跡 | 71. 田辺天神山遺跡 | 72. 都谷北遺跡 |
| 73. 都谷遺跡 | 74. 新宗谷窯跡 | 75. 新宗谷館跡 | 76. 新宮社東遺跡 | 77. 新宗谷館跡 | 78. 新宮前遺跡 |
| 79. マムシ谷窯跡 | 80. 下司古墳群 | 81. 大御堂裏山古墳 | 82. 観音寺東遺跡 | 83. 観音寺東館跡 | 84. 普賢寺跡 |
| 85. 下司館跡 | 86. 多々羅遺跡 | | | | |

図1 南垣内遺跡 位置と環境

ここで報告する南垣内遺跡(1)は弥生時代および中世にかかる集落遺跡であり、方形周溝墓を検出し、周溝内から多量の土器が出土している。また、南垣内遺跡の北西に隣接する大切遺跡では、弥生時代中期後半から古墳時代初頭にかけての土器が多数出土している。

古墳時代前期後半以降、木津川左岸域では古墳造営が活発化する。令和4年度に国史跡に指定された綴喜古墳群は、古墳時代前期に現在の京田辺市から八幡市にかけて造営された古墳を主として構成される。大住に所在する大住南塚古墳、大住車塚古墳、薪に所在する天理山古墳群(32)、興戸に所在する興戸1号墳(24)、同2号墳(25)、飯岡に所在する飯岡車塚古墳(38)などが挙げられる。これらの中でも大住南塚古墳及び飯岡車塚古墳の埋葬施設には竪穴式石室が採用されるなど、古墳時代前期後半に木津川の水運に係る首長の活発な造墓活動が推測される。古墳時代中期以降は、飯岡丘陵でゴロゴロ山古墳(39)、薬師山古墳(40)、トヅカ古墳が築造され、飯岡丘陵が前期から継続して古墳が造られた地域であることが窺える。古墳時代後期には、酬恩庵一休寺の西側に円墳10基と横穴墓10基から構成される堀切古墳群が築かれる。また、市内で唯一天井石を残すシオ1号墳や、同志社大学構内に遺存し、京都府指定史跡である下司古墳群(80)・大御堂裏山古墳(81)が挙げられる。

飛鳥時代には普賢寺(現在の大御堂観音寺)が創建されたと考えられており、普賢寺跡(84)には飛鳥時代後期から中世にかけての瓦が採取されている。また生産遺跡としては飛鳥時代末の須恵器窯である新宗谷窯跡(74)が知られる。市中心部に位置する興戸廃寺(27)は、詳細な性格は不明であるが、飛鳥時代後期から平安時代の遺物が出土している。

奈良時代に整備された古山陰・山陽道は、市内では現在の府道22号八幡木津線がこれをほぼ踏襲するとされている。東西0.7km、南北1kmの範囲に広がる興戸遺跡(26)は、この府道に沿って西へ約30°振れる掘立柱建物や溝、柵列を検出し、土馬や墨書土器が出土している。

平安時代においても興戸遺跡(26)では掘立柱建物や井戸を検出し、緑釉陶器や龍泉窯青磁の小片が出土していることから、官衛的性格がうかがえる。他にも三山木遺跡(53)から掘立柱建物や井戸が検出されている。三山木遺跡周辺には奈良時代の古山陰・山陽道の山本駅が置かれたと考えられており、これらの遺構はその機能を引き継いだ施設のものである可能性が考えられる。また市内唯一の独立峰であり、平安京造営の際に目印にされたとされる甘南備山(標高217.5m)の山頂付近には神奈備神社が祀られた。その東側の谷には『今昔物語集』にも説話がみられる神奈比寺が立地していたが、元禄2(1689)年に薪山垣外に移され、現在も信仰が続いている。中世には薪遺跡(37)で在地領主の居館跡や園池の遺構を検出している。遺物は13世紀後半～14世紀前半を中心とし、多量の土師器皿とともに白磁四耳壺、青磁盤等の優品が出土している。中世後半から近世にかけては、付近に田辺城(15)や興戸城(6)が築かれ、田辺城跡では15世紀から16世紀にかけての堀切や石組遺構が検出されている。また普賢寺川沿いには草路城(2)、南山城(67)、都谷館(73)、新宗谷館(75)など複数の城館が築かれた。(上野)

Ⅱ 調査の概要

1. 調査位置

調査地は現在の京田辺市立草内小学校の校庭の南半分および、草内幼稚園の敷地にあたる(図2)。

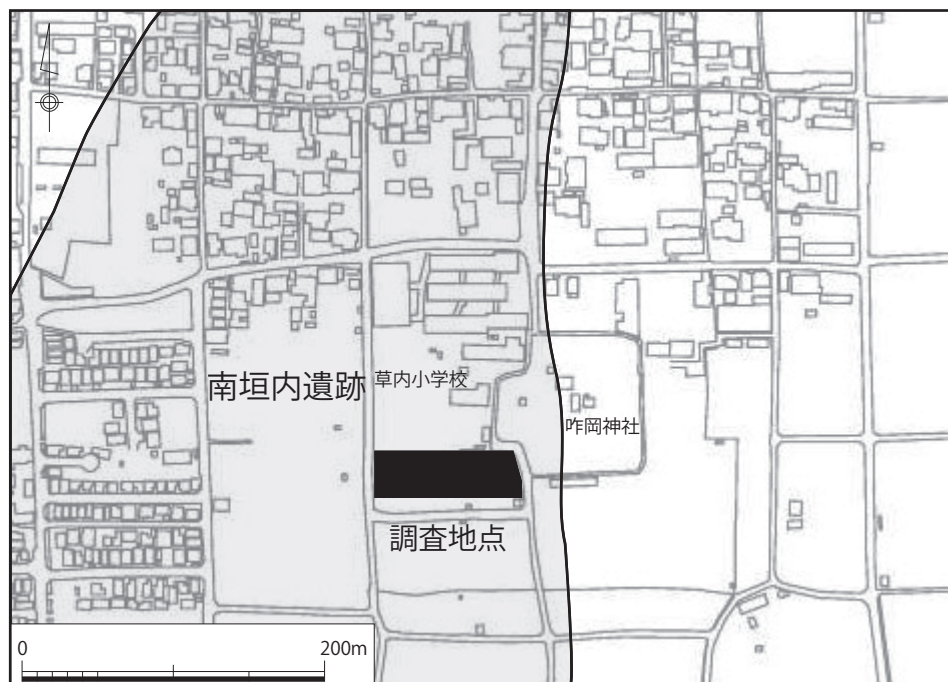


図2 調査地点（国土地理院地図をベースに作成）

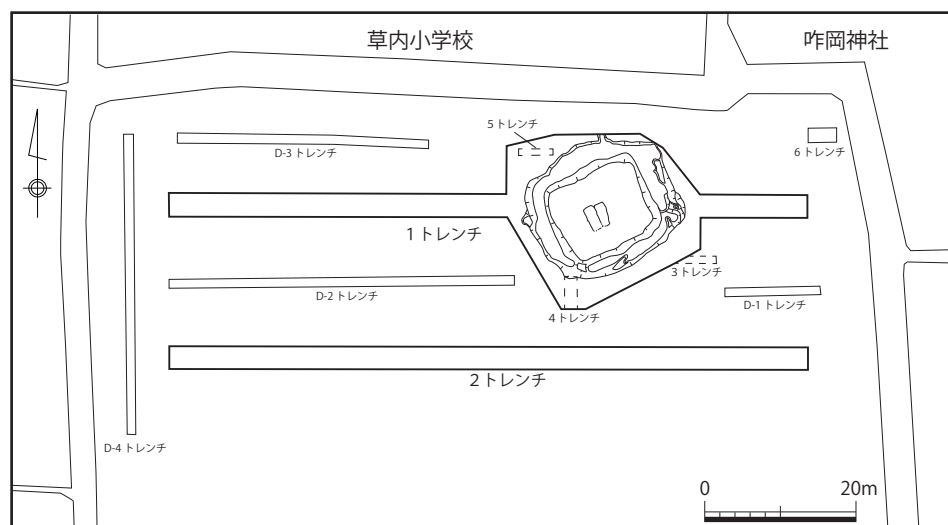


図3 調査区配置図

1992年の発掘調査時点では耕作地であり、北側は草内小学校、東側は昨岡神社に隣接していた。この調査地内において、東西85m、南北4mの2つの調査区（1・2トレンチ）を中心とする6つの調査区（1～6トレンチ）を設定した（図3）。なお、1トレンチで方形周溝墓を検出したことから、調査区の拡張および、追加調査として4つの（D1～4トレンチ）調査区を設定している。

2. 基本層序（図4）

第1層は黒色土の耕作土層、第2層は耕作土に伴う黄色粘質土の床土層である。第3層は灰白色砂質土の包含層で、中世の遺物

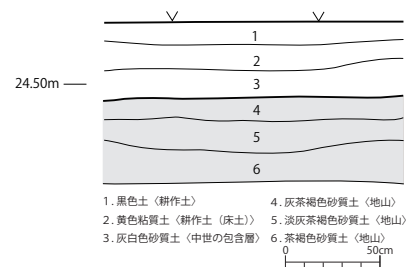


図4 基本層序

を含む。遺構面は1面のみで、中世と弥生時代の遺構を灰茶褐色砂質土（第4層）の地山上面で確認した。なお、1トレンチでは同一面で中世の耕作溝と弥生時代中期の方形周溝墓を、2トレンチでは中世の耕作溝のみを検出している。（金井）

Ⅲ 遺構

第4層上面において、南北に走る中世の耕作溝と弥生時代の方形周溝墓を検出した。本稿では、1トレンチで検出した弥生時代の方形周溝墓を中心として報告する。方形周溝墓（SX01）（図5）は1トレンチの中央部で検出した。墳丘上部は削平を受け、盛り土は確認できない。墳丘長は東西13.7m、南北12.2mで、墳丘と周溝を合わせた全長は東西19.2m、南北17.4mを測る。墳丘の中央部では墓坑を2基検出した。墓坑1と墓坑2は重なり合うように検出され、切り合いから墓坑1の上に墓坑2が成立している。なお、削平の影響を受け、墓坑は床面から0.2mのみ残存する。墓坑1は長軸3.1m、単軸1.3m、墓坑2は長軸3.2m、短軸1.4mを測る。両者とも墓坑内に木材の腐食土が残存することから、木棺が納められていたと考えられる。図5に示した点線は木材の腐食土から想定される木棺の復元位置である。なお、両者とも墓坑内からの出土遺物はなかった。

墳丘を巡る周溝は逆台形をていし、地山を削り出して構築している。削平の影響を受け、残存高は0.2m～0.4mである。また、南西隅では高まりが確認でき、陸橋の可能性が考えられる。なお、周溝底では56点の供献土器と、板状の炭化木が出土している。（金井）

Ⅳ 出土遺物

方形周溝墓SX01から出土した弥生土器は、広口壺、直口壺、細頸壺、有段口縁壺、無頸壺、壺底部、高杯、脚台、甕である。このうち56点を図化した。器種組成は壺が47点（83.9%）、甕が5点（8.9%）、脚台が3点（5.3%）、高杯が1点（1.7%）で、壺が主体的である。文様は櫛描文を多用し、特に壺胴部文様は櫛描直線文のみを施すもの、櫛描直線文の最下段に櫛描波状文を施すもの、櫛描直線文と櫛描波状文を交互に施すものなどのパターンがある。凹線文を施すものもあり、広口壺の口縁部や頸部、甕の口縁部などに施されている。焼成後穿孔のある個体はない。1～30は口縁部が外反する壺、31～40は口縁部が外反しない壺である。41～47は壺底部、48～51は高杯と脚、52～56は甕である。広口壺のうち、1～27は在地の胎土で、28～30の胎土は在地とは異なる。1～26はおおむね頸部が長く胴部が球体あるいは算盤形であり、27は頸部が短く長胴である。

1～5は小形広口壺である。無文のもの1、2と有文のもの3～5がある。このうち5は器形と文様が生駒山西麓産土器と共通するが、胎土は在地のものであり模倣品と考えられる。いずれも、外面はヘラミガキまたはハケ、内面はナデで仕上げる。

6～23は中形広口壺である。口縁端部が無文の6、9、櫛描文を施す7、8、12、15～23、凹線文を施す10、11、13、14がある。このうち15～23は胴部が遺存し、15が櫛描直線文、16～18が櫛描直線文と最下段に櫛描波状文、19～23では櫛描直線文と櫛描波状文を交互に施す。いずれも口縁部～胴部上半外面はハケまたはヘラミガキ、胴部下半外面はヘラミガキ、口縁部と胴部の内

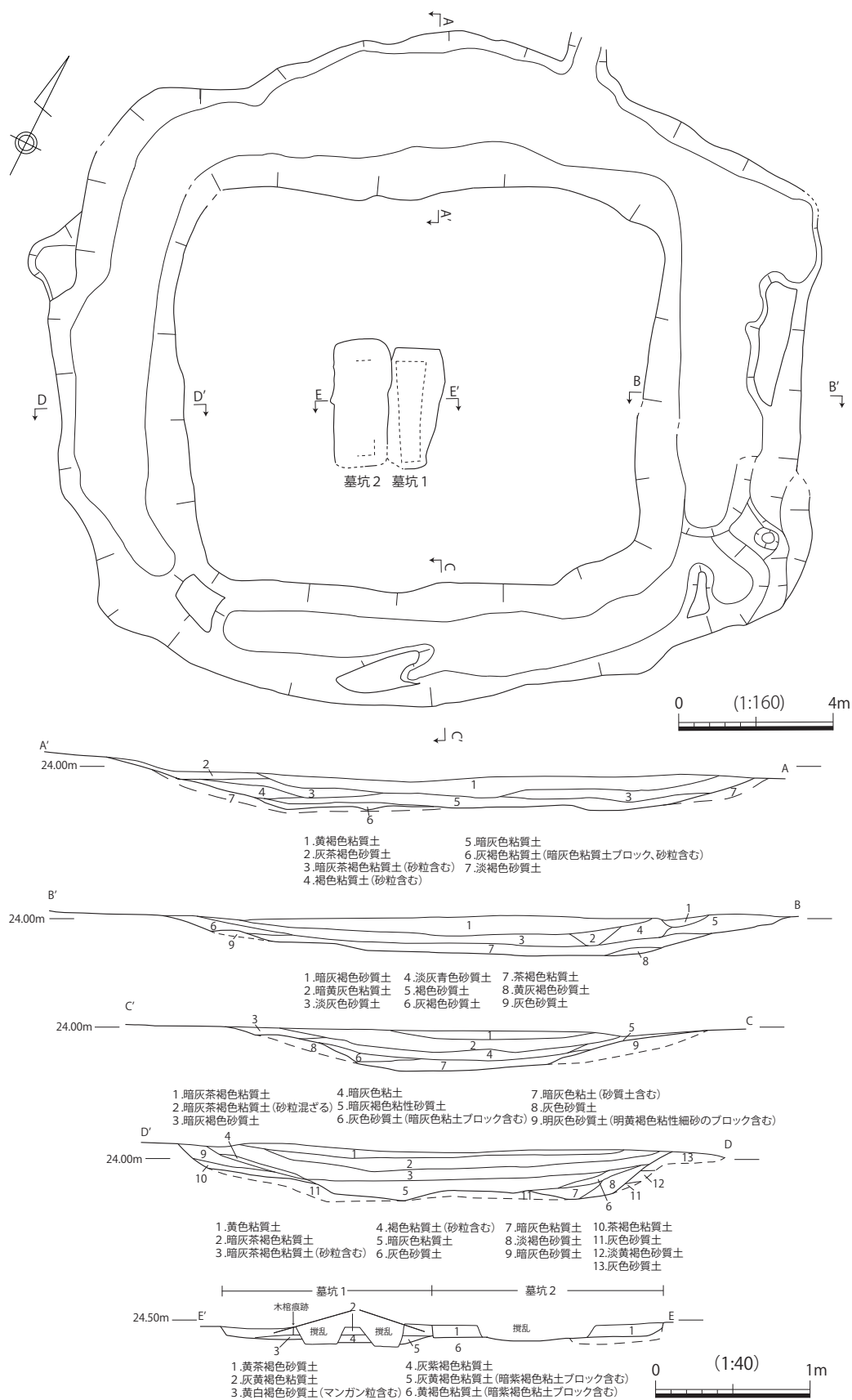


図5 方形周溝墓平・断面図

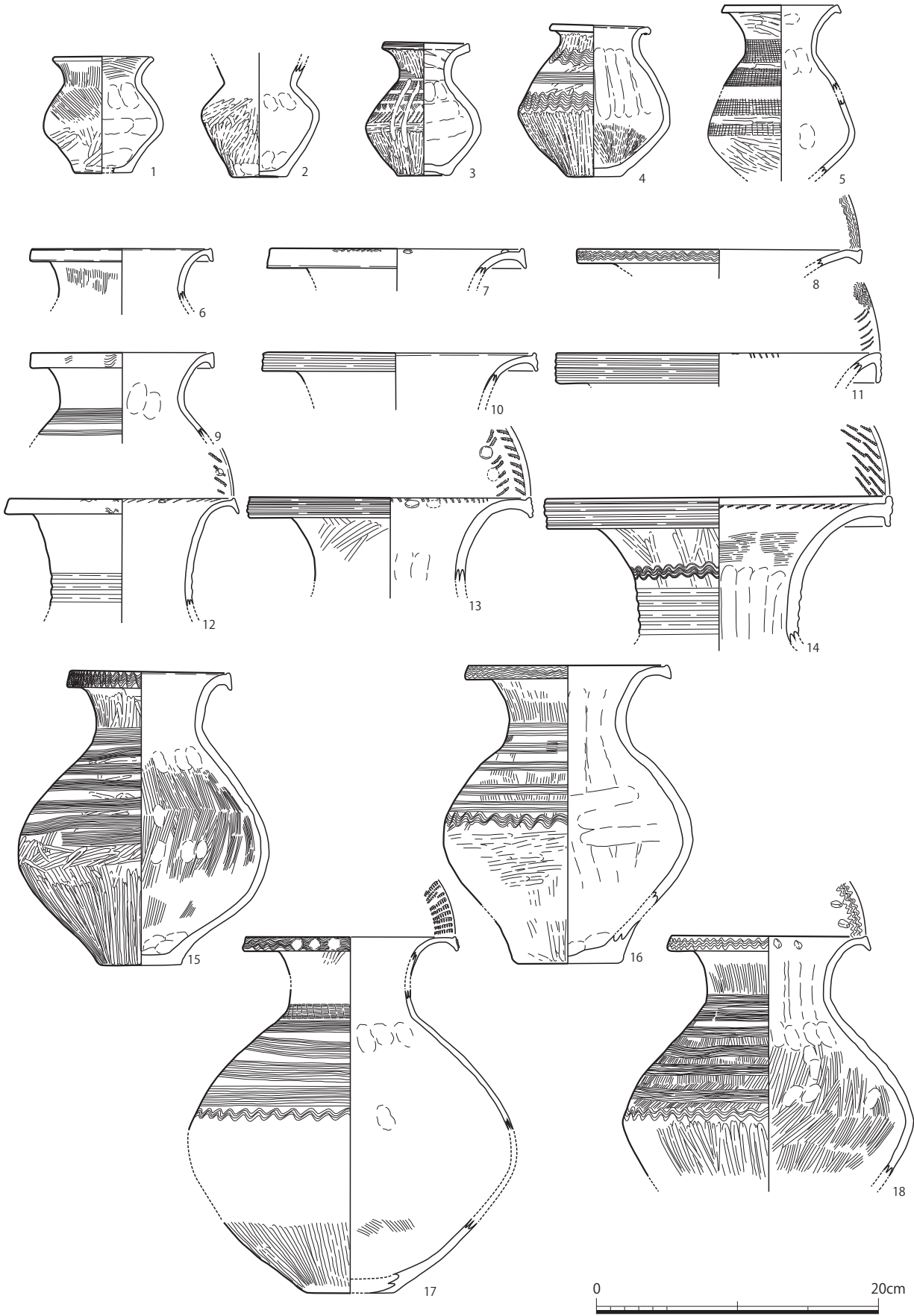


图6 出土遺物 (1)

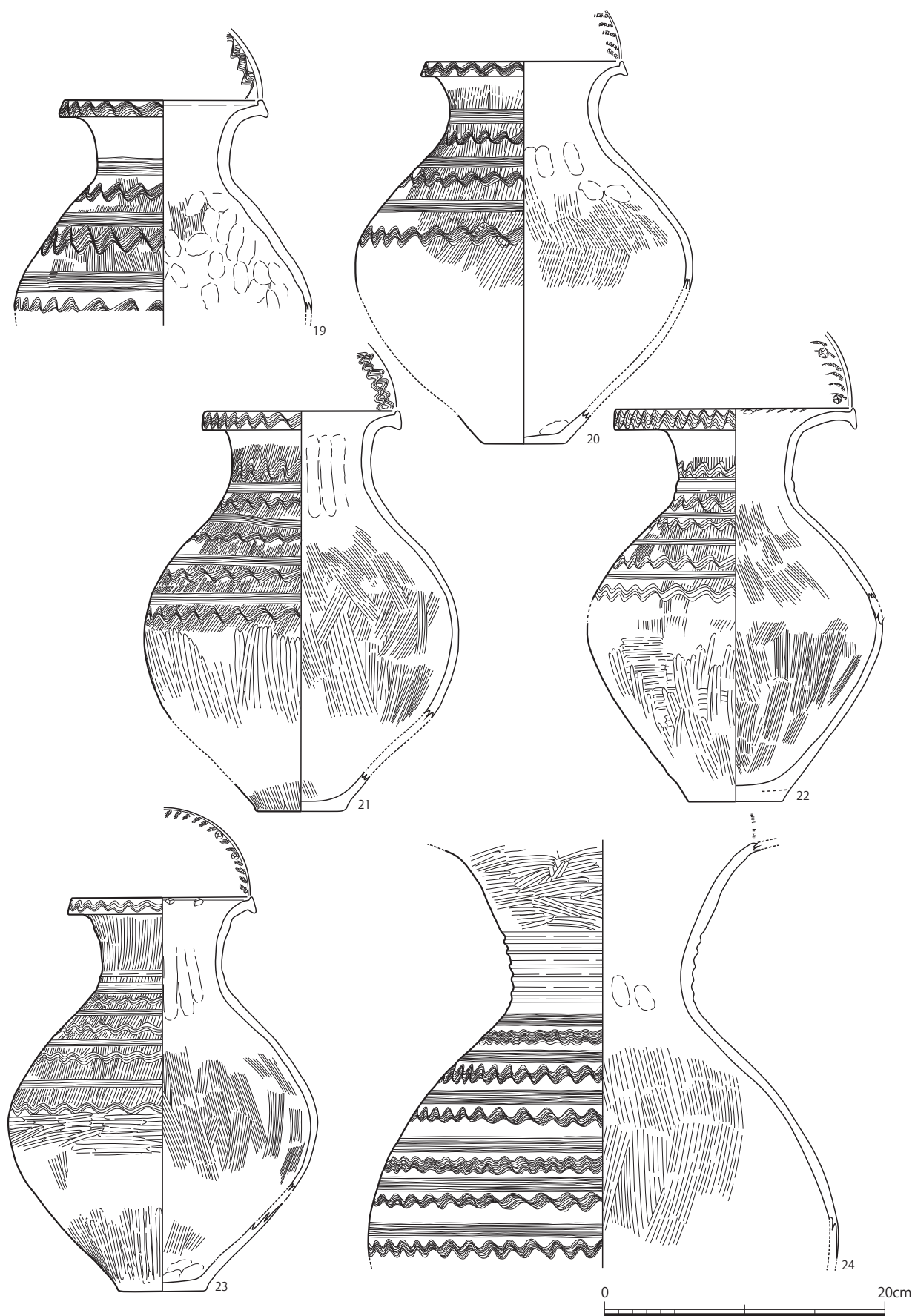


図7 出土遺物(2)

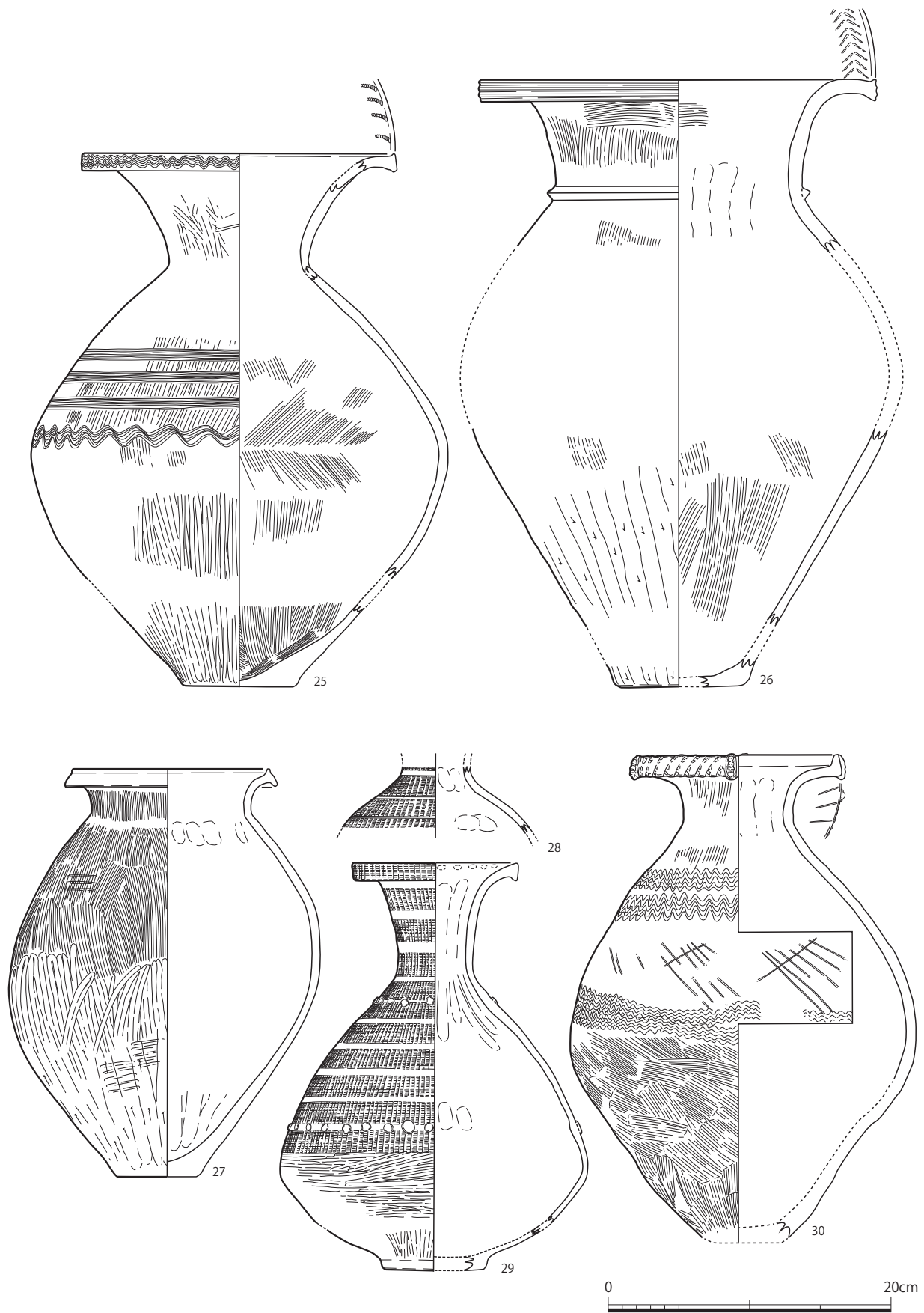


图8 出土遺物 (3)

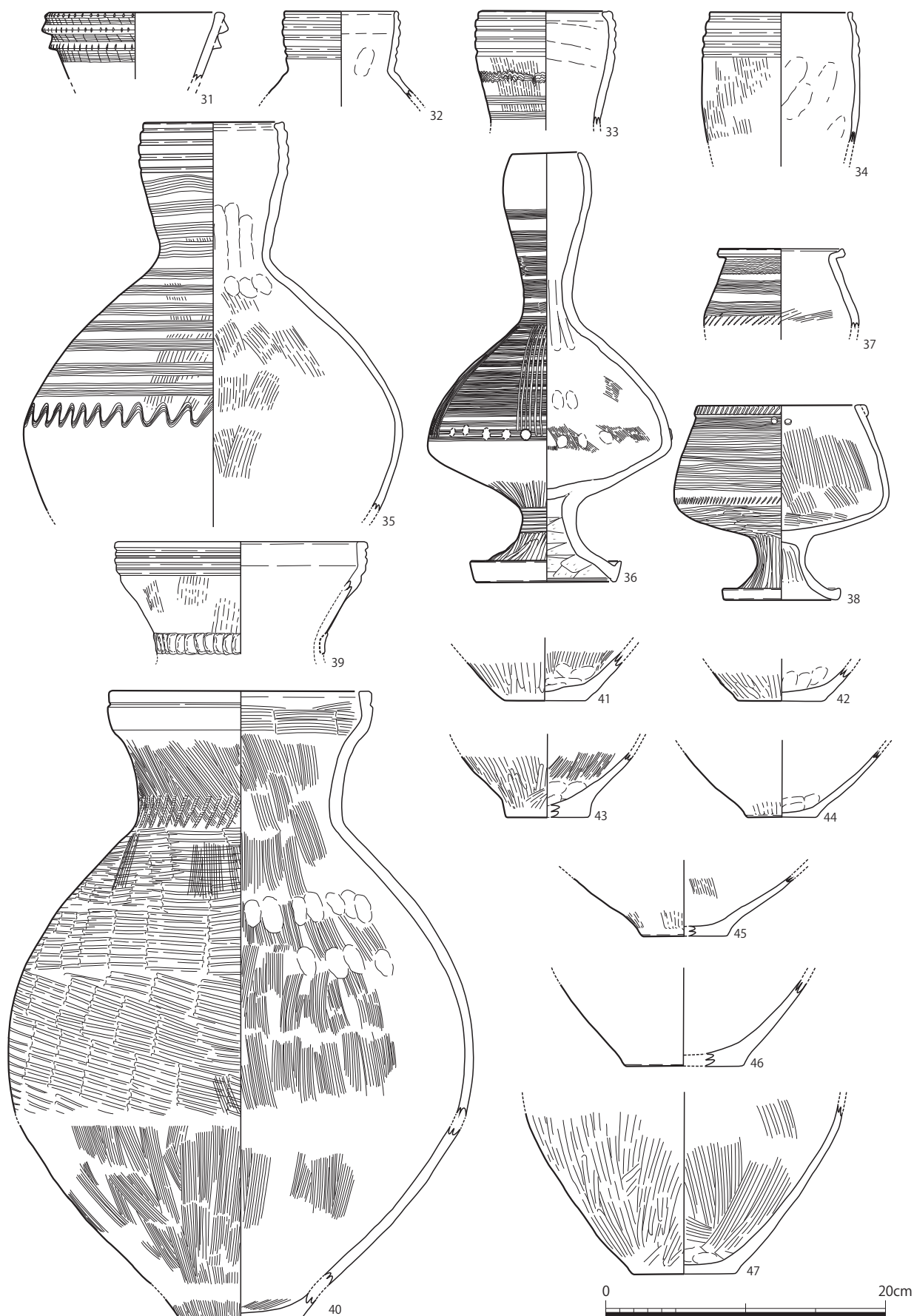


図9 出土遺物(4)

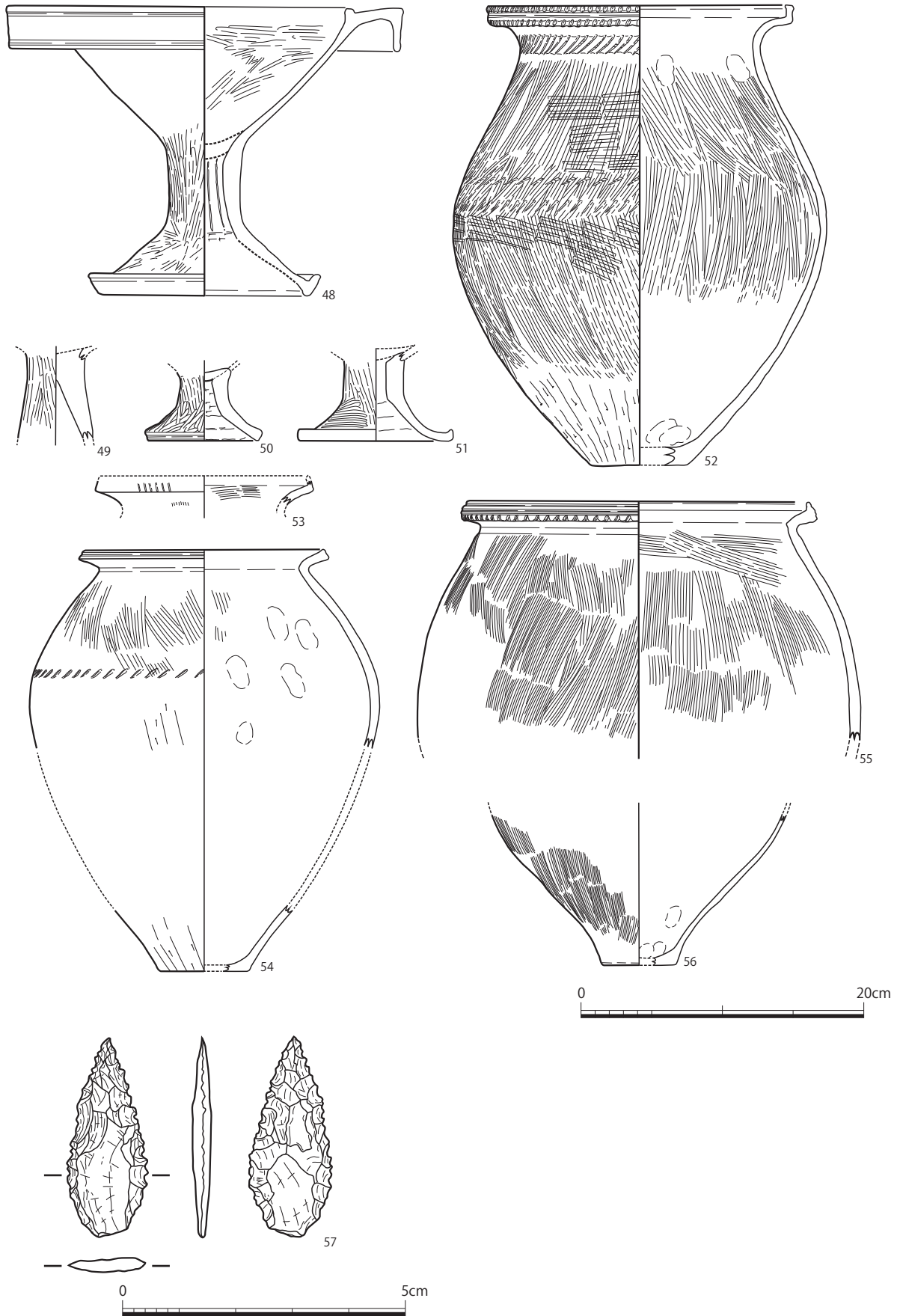


图 10 出土遺物 (5)

面はハケのちナデで仕上げる。

24、25 は大形広口壺である。24 は頸部に凹線文、胴部に櫛描直線文と櫛描波状文を交互に施す。25 は口縁端部と口縁部内面に櫛描波状文、胴部に櫛描直線文と最下段に櫛描波状文を施す。いずれも口縁部～頸部外面はヘラミガキ、胴部上半外面はハケ、胴部下半外面はヘラミガキ、口縁部・胴部内面はハケのちナデで仕上げる。

26 は水平に広がる口縁部を持つ大形広口壺である。口縁端部に凹線文、口縁部内面に列点文、頸部に貼付突帯文を施す。口縁部～胴部上半外面はハケ、胴部下半外面はヘラケズリ、口縁部・胴部内面はハケで仕上げる。口縁部などの特徴が丹後地域の土器と類似し、搬入品の可能性も考えられる。

27 は無文の広口壺である。短く外反し端部に面を持つ口縁部と、長胴形の胴部を持つ。口縁部・胴部上半外面はハケ、胴部下半外面はヘラケズリのちヘラミガキ、口縁部～胴部内面はナデで仕上げる。

28、29 は広口細頸壺である。28 は頸部から胴部上半で、櫛描簾状文を施す。胎土は在地のものである。内外面共にナデで仕上げる。29 は完形品で、算盤玉形の胴部を持ち、口縁端部や頸部から胴部にかけて櫛描簾状文を施す。口縁部～胴部上半外面はナデ、胴部下半外面はヘラミガキ、口縁部～胴部内面はナデで仕上げる。胎土は角閃石を含み、生駒山西麓地域からの搬入品と考えられる。

30 は受口状を呈する口縁部と長胴形の胴部を持つ広口壺である。口縁端部には刻目文と棒状浮文、口縁部下には斜線状の線刻文、胴部には櫛描波状文と斜格子状の線刻文を施す。口縁部外面はナデ、頸部～胴部外面は粗いハケ、口縁部・胴部内面はナデで仕上げる。器形と文様および胎土の特徴から、伊賀地域周辺からの搬入品と考えられる。

31、32 は直口壺である。31 は緩やかに開く口頸部を持つ。口頸部外面には貼付突帯文が巡る。32 は直立する口頸部を持ち、外面には凹線文を施す。器形から水差の可能性も考えられる。いずれも内外面共にナデで仕上げる。

33～36 は細頸壺である。中形品 33～35 と台付の小形品 36 がある。33～35 はいずれも口頸部外面に凹線文が巡り、33、35 は凹線文帯の直下より櫛描文を施す。いずれも外面はハケ、内面はナデで仕上げる。36 は頸部から胴部に櫛描直線文と縦方向のヘラミガキ、柱状部にヘラ描直線文を施す。口縁部～胴部上半外面はハケ、胴部下半～脚部外面はヘラミガキ、口縁部・胴部内面はナデで仕上げる。

37、38 は無頸壺である。38 は外反する口縁部を持ち、胴部に櫛描波状文と櫛描直線文、最下段に列点文を施す。39 は台付の小形品である。段状口縁で、胴部に櫛描直線文と最下段に列点文を施す。いずれも口縁部～胴部外面はナデ、内面はハケのちナデで仕上げる。

39、40 は有段口縁壺である。39 は口縁部外面に凹線文、頸部に貼付突帯文を施す。外面はハケ、内面はナデで仕上げる。40 は口縁部外面に凹線文、頸部は粘土帯を貼り付けずに列点文を施す。口縁部外面はハケ、胴部上半外面は水平方向のタタキ、胴部下半外面はハケ、口縁部・胴部内面はハケのちナデで仕上げる。

41～47 は壺底部である。直線的に立ち上がる 41、42、46、47 と、底部が突出する 43～45 がある。いずれも平底で、外面はヘラミガキ、内面はナデで仕上げる。

48 は高坏である。水平口縁を持ち、垂下した口縁端部には凹線文が巡る。脚部は円盤充填技法

を採用したもので、内面にはシボリ痕を残す。坏部外面はナデ、脚部外面はヘラミガキ、坏部内面はヘラミガキ、脚部内面はシボリのちヘラケズリで仕上げる。

49～51は脚部である。柱状部が中実の49と、円盤充填技法を採用した50、51がある。いずれも外面はヘラミガキ、内面はナデで仕上げる。

52～56は甕である。受口状を呈する口縁部を持つ52、53と、「く」の字状の口縁部を持つ54、55、底部56がある。52は口縁端部に刻目文、頸部にハケ工具による列点文、胴部に列点文2帯を施す。53は口縁端部に斜線状の線刻文を施す。内外面共にナデで仕上げる。54は拡張しない口縁端部に凹線文、胴部に列点文を施す。内外面共に口縁部はナデ、体部はハケで仕上げる。55は口縁端部を上方に拡張し、凹線文と刻目文を施す。内外面共に口縁部はナデ、体部はハケで仕上げる。56は平底を呈し、外面には炭化物が付着する。内外面共にハケで仕上げる。(軽野)

V 南垣内遺跡の方形周溝墓

本方形周溝墓は、四方を途切れない溝で囲まれる近畿地方通有のもので、南西部は溝が浅くなり陸橋状になる。北辺の周溝から北へ延びる細い溝があることから、連結する別の方形周溝墓のある可能性は排除できないものの、周辺のトレンチ調査では方形周溝墓の溝らしきものが見つかっていない。そのため、単独で築造された可能性がある。一辺13m前後で方形に近い形をしており、やや規模が大きい。大きく削平を受けるものの、主体部が残存し、木棺に埋葬された二人以上の被葬者のいることが判明している。周溝に併行して方形周溝墓の中央に最初の埋葬施設が設置され、それに併行して西に第2の埋葬施設が設けられる。最初の墓壙の長辺を切って次の埋葬施設がもうけられていることから、最初の被葬者に関係の近い人が埋葬されたのだろう。

周溝からは多数の土器が見つかり、大半は同一個体の破片がまとまった状態で検出されたので、墳墓に置かれた土器が転落したと推測される。一方、広口壺17、生駒西麓産広口壺29と台付無頸壺38は、土器の一部が周溝内の離れた場所から見つかったので、これらの土器は意図的に割って廃棄されたのだろう。図化できた個体のうち、壺が8割余りを占め、少量の甕が含まれる点は、弥生時代の方形周溝墓の供献土器の特徴に一致する。墓に用いられる土器のなかに、5点のミニチュアの壺が含まれるのも興味深い。また、後述する近江系土器52、53や、ミニチュア土器3、5、甕52、53など、同じ種類の土器が複数個体同じ場所で検出されることから、同一種の土器を意図的にまとめて配置していた可能性がある。調理による煤の付着する土器は、煮沸具の甕のみであるが、例外的に無文壺27にも煤が付着していた。日常的に使用していた土器を墓に置いたのか、墓で加熱を伴う飲食儀礼をおこなったのかは不明である。

周溝から出土した土器を手掛かりに、被葬者の埋葬された時期や出自などを検討してみよう。中期後葉の土器は、横方向に強くなでて施文する凹線文が多用される。近畿地方では、中期前葉以降用いられる櫛描文が、凹線文出現後も継続するので、櫛描文のみの土器もあるものの、その形態から、土器の時期は、概ね弥生時代中期後葉が中心である。

土器のなかで最も古い様相を示すのは、直口壺口縁部片31である。突帯が二条張り付けられ、凹線文に置き換わっていないので、中期中葉にさかのぼりうる。ただし、摩耗を受けた小片1点のみであるため、埋葬の際に古い土器が少量混在した可能性が排除できない。最も新しい様相を示す

のは、受口壺 40 である。この器種の頸部においては、指押さえによる粘土紐貼り付けから、粘土紐を省略した工具による施文へと変化することが知られる。受口壺 40 の頸部は、粘土紐はなく文様のみ施されている。加えて、口縁部は凹線文で装飾され、胴部のハケ調整が省略されて叩き目が見えることから、中期末に位置づけられる。これは完形に復元できるほどの個体であるため、中期末までは確実に当該周溝墓が利用されていたことがわかる。

それ以外の土器をみると、凹線文の施されるものと施されないものがあるが、中期後葉から末葉におさまるとしても矛盾はない。出土状況から、凹線文の施される土器は北辺と東辺に多く、凹線文の施されない土器は東辺と南辺に多く出土し、出土位置が若干ずれるため、中期後葉～末葉をさらに 2 時期に分けられる可能性もある。

次に、土器の製作地と地域色をみてみよう。確実に搬入された土器は、生駒西麓産の広口壺 (28、29) と、伊賀地域周辺の可能性の高い、絵画の可能性のある線刻を施された広口壺 (30) である。

また、受口状の口縁部を呈する 52 と 53 の甕は近江地域周辺からの搬入の可能性が高い。広口壺 28、29 は胎土が茶褐色で角閃石を含み、在地胎土とは異なる。精緻に簾状文を連続して施す点、胴部下位が膨らむ形態、下部のみに肥厚させる口縁部の形からも、生駒西麓産土器であるといえよう。30 は胎土が在地のものと異なる。胴部外面を短いピッチでハケによる仕上げをおこなう点、粗い波状文と口縁部に棒状浮文を張り付ける点が、南山城地域の土器の特徴とは異なる。甕 52 と 53 はともに受口状の口縁部をもち、近江地域の甕の特徴を有する。胴部に列点文を施す点も近江

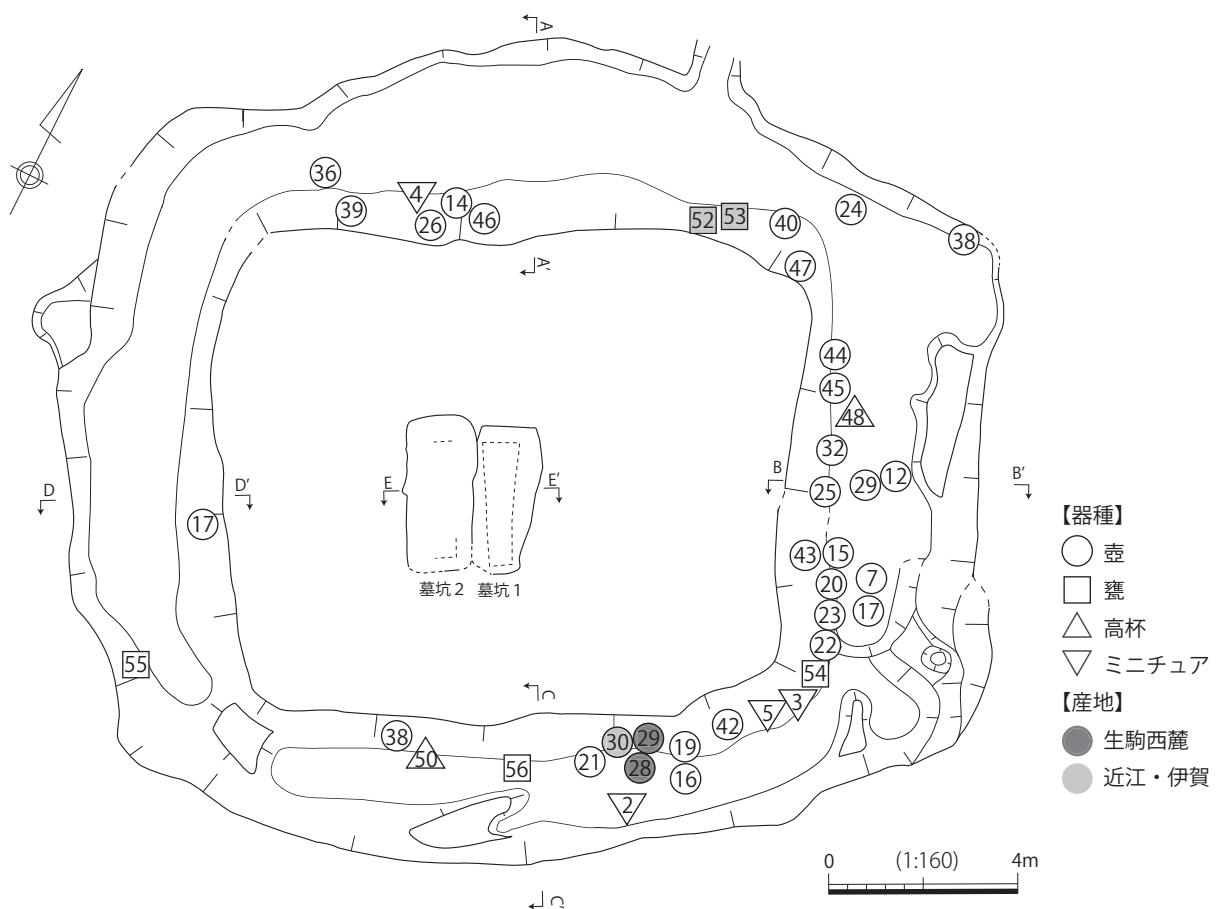


図 11 周溝内の土器の出土位置 (1)

地域の土器との共通性を指摘できる。他方、胴部に叩き目が見える点は、やや近江地域の土器の特徴から逸脱している。ミニチュア土器5は、在地胎土であるが、簾状文のみで文様が構成される点や口縁部の形態など、生駒西麓産壺の特徴をとらえて模倣されている。

在地胎土の土器をみると、叩き技法の後にハケ調整を施し、胴部下半を削って薄くしてからミガキ仕上げするという手順が守られている。文様で装飾される貯蔵具の広口壺は、多少のバリエーションはあるが、概ね胴部に直線文を連続して施し最下段に波状文を描くパターンと、波状文と直線文の交互に施すパターンの大きく2つが認められる。他地域の土器を考慮すると、前者は大和地域の壺に多く、後者は摂津地域の壺に多い文様構成である。胴部がやや長く、口縁部を折り返し、直線文を主文様とする台付無頸壺38も、大和地域の土器に類似する。地理的に大和地域と摂津地域の間位置する南山城地域木津川左岸の地で、土器文様の構成にこの両方がある点から、摂津地域と大和地域の両方との密な交流関係がうかがわれる。

また、広口壺口縁部の内面には波状文や列点文を施し、浮文を貼り付けるなど、華やかに壺を飾る。これは山城地域から近江地域にかけての特徴であり、近江地域との関係の深さもうかがわれる。また、台付細頸壺は縦方向の暗文が数条施され円形浮文を施す点、胴部の下部が膨らむ形は、近畿地域通有であるものの、生駒西麓地域や東方の土器の特徴でもある。さらに、瀬戸内地域から北陸、東海地域まで広く流行した凹線文を、口縁部や頸部に取り入れている。水平口縁の高杯は、脚部と杯部を一体で成形したのちに、円盤を充填して杯部が仕上げられており、近畿地域に共通す

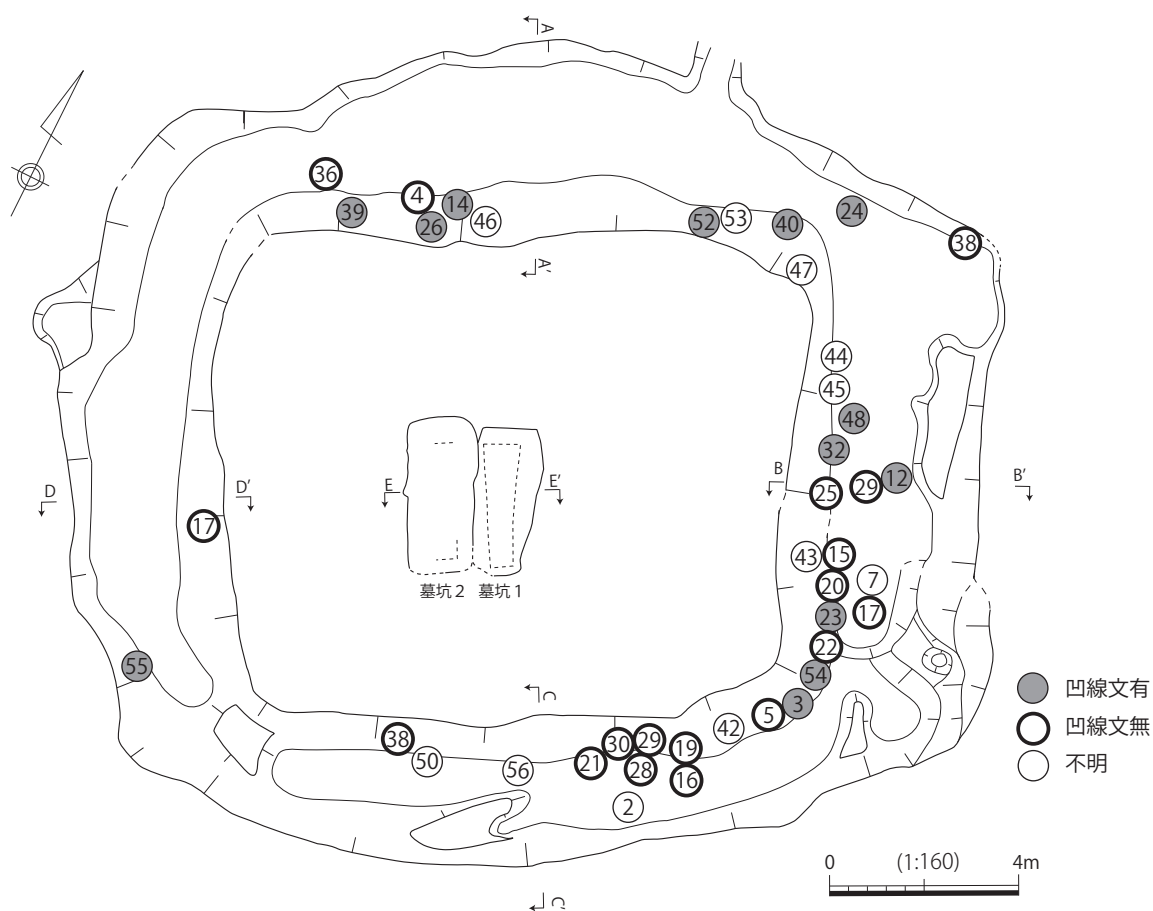


図12 周溝内の土器の出土位置(2)

る技法で製作されている。短い脚部を絞って柱状にし、施文がないという点は、近畿地域の脚の特徴と合致する。

文様構成を通じて、南山城地域の木津川左岸の人々は、北は摂津地域、南は大和地域、東は近江地域の人々と頻繁に交流をしていたことがうかがわれ、中期後葉になると西から凹線文を取り入れつつ、南山城の地域色のある土器に仕上げた。これらの土器が用いられた周溝墓の被葬者は、南山城地域に出自をもつと推測される。さらに想像を逞しくすると、土器をもって葬儀に来たであろう、生駒西麓地域や伊賀、近江地域の人々がいたのではあるまいか。

前述の通り、弥生時代前期には、南垣内遺跡よりも北西に約2 km離れた稲葉遺跡で前期末頃の方形周溝墓が検出された。南垣内遺跡の北に隣接する大切遺跡では後期の土器が採取されている。弥生時代を通して、南垣内遺跡が所在する木津川左岸の沖積平野は活用されていたのである。弥生時代中期においては、南垣内遺跡から西へ1.5 kmほど離れた丘陵に位置する興戸遺跡で土壙墓が、興戸遺跡の北へ約1 km離れた田辺城跡下層で竪穴住居と方形周溝墓が確認されており、丘陵地も利用されていたことがわかる。南垣内遺跡の被葬者が、丘陵に位置する集落に居住していたのかを知るすべはない。しかし、当該方形周溝墓は、京田辺の最も広い沖積平野の中央付近に位置し、遺跡の南を流れる普賢寺川をさかのぼると田辺丘陵を超えて、摂津や北河内地域へ抜けることができ、方形周溝墓の被葬者が丘陵の集落と無関係であったとは考えにくい。また、木津川の水運を利用すると南の奈良地域や北の京都盆地、宇治川を通じて近江地域、淀川を通じて大阪平野へ抜けることもできる。さらに、木津川を渡れば伊賀地域へも抜けることができ、南垣内遺跡は交通の要所に位置するといえるだろう。搬入土器の様相からも河内地域や伊賀、近江地域の人々と関係があることはすでに述べた通りであり、方形周溝墓の被葬者は木津川左岸の交通の要に墓を築造し、広く各地の人々と交流をおこなった人物であったと理解したい。(長友)

謝辞

京田辺市で南垣内遺跡の土器を実測したのは、1995年の春だった。卒業論文作成のため、毎日各機関へ通い土器を実測させていただいたが、本格的に卒業論文に取りかかった際に、最初に実測をおこなったのが南垣内遺跡の土器だった。いつか報告ができればと希望していたが、軽野氏と金井氏の助けを得てようやく報告をすることができた。粘り強く作業を進めてくれた二人に感謝するとともに、快く報告を承諾してくださった京田辺市にも心より御礼申し上げる。(長友)

(長友 朋子 立命館大学文学部教授)

(上野あさひ 京田辺市教育委員会)

(金井 千紘 立命館大学文学部博士後期課程)

(軽野 大希 たつの市教育委員会)

表 1 南垣内遺跡遺物観察表

番号	器種	法量	胎土	焼成	色調	調整	文様	備考
1	小形広口壺	器高:8.2cm 口徑(復元径):6.6cm 胴部最大径(復元径):8.2cm 底部径(復元径):4.1mm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート、赤 色粒含む	良好	外面:7.5YR8/4浅黄褐色 内面:7.5YR8/3浅黄褐色	外面:口頸部~胴部上半ハケ。胴部下半ヘラミガキ。 内面:口頸部内面ヨコハケ。胴部ナデ。		
2	小形広口壺	器高(残存高):7.9cm 胴部最大径:8.3cm 底部径:4.0cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、赤色粒含む	良好	外面:7.5YR8/2灰白色 内面:7.5YR8/1灰白色	外面:ヘラミガキ 内面:ナデ		
3	小形広口壺	器高:9.4cm 口徑:5.8cm 胴部最大径:8.2cm 底径:3.8cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、赤色粒含む	良好	外面:10YR8/2 灰白色 内面:10YR8/2灰白色	外面:口縁部ナデ。胴部横位ヘラミガキのち縦位ヘラミガキ。 内面:口縁部~胴部ナデ。	胴部上半外面に櫛描直線文1帯、櫛描簾状文 2帯、櫛描屈状文、櫛描列点文のち縦位のヘ ラミガキ。	
4	小形広口壺	器高:10.8cm 口徑:7.1cm 胴部最大径:15.7cm 底径:3.8cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、赤色粒含む	良好	外面:7.5YR8/4浅黄褐色 内面:7.5YR5/1暗褐色	外面:口縁部~胴部上半ナデ。胴部下半縦位のヘラミガキ。 内面:口縁部~胴部上半ナデ。胴部下半ハケ。	胴部上半外面に櫛描波状文2帯と櫛描直線文 1帯を交互に施す。	
5	小形広口壺	器高(残存高):12.0cm 口徑(復元径):8.0cm 胴部最大径(復元径):10.4cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート、金 雲母含む	良好	外面:10YR6/3にぶい黄褐色 内面:10YR6/3にぶい黄褐色	外面:口縁部~胴部ヘラミガキ 内面:口縁部~胴部ナデ	頸部~胴部上半外面に櫛描簾状文4帯(部分 的にヘラミガキに切られる)	生物山西産土器の 模倣品か。
6	中形広口壺	器高(残存高):3.5cm 口徑(復元径):12.6cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート、赤 色粒含む	良好	外側:10YR8/2灰白色 内面:10YR8/2灰白色	外面:口縁部ナデ 頸部ナデ 内面:口頸部ナデ		
7	中形広口壺	器高(残存高):1.8cm 口徑(復元径):17.8cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート、赤 色粒含む	良好	外側:10YR8/2灰白色 内面:10YR8/3浅黄褐色	外面:口縁部ナデ 内面:口頸部ナデ	口縁端部に櫛描波状文。口縁部内面に乳頭 状突起。	
8	中形広口壺	器高(残存高):1.3cm 口徑(復元径):20.0cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート含む	良好	外側:7.5YR6/6褐色 内面:7.5YR7/4にぶい褐色	外面:口縁部ナデ 内面:口頸部ナデ	口縁端部に櫛描波状文。口縁部内面に櫛波 状文。	
9	中形広口壺	器高(残存高):5.8cm 口徑(復元径):12.9cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート、赤 色粒含む	良好	外面:7.5YR8/4浅黄褐色 内面:7.5YR8/3浅黄褐色	外面:口縁部ナデか 内面:口縁部ナデ	胴部上半外面に櫛描直線文2帯	
10	中形広口壺	器高(残存高):2.1cm 口徑(復元径):18.8cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート、赤 色粒含む	やや不良	外面:7.5YR6/4にぶい褐色 内面:5YR7/4にぶい褐色	外面:口縁部ナデ 内面:口縁部ナデ	口縁端部に凹線文2条。	
11	中形広口壺	器高(残存高):2.2cm 口徑(復元径):22.8cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート、赤 色粒含む	良好	外面:7.5YR8/4浅黄褐色 内面:7.5YR8/3浅黄褐色	外面:口縁部ナデ 内面:口縁部ナデ	口縁端部に凹線文4条。口縁部内面に櫛描列 点文のち櫛描波状文。	
12	中形広口壺	器高(残存高):7.7cm 口徑(復元径):16.0cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート含む	良好	外面:10YR8/2灰白色 内面:7.5YR8/3浅黄褐色	外面:口頸部ナデ 内面:口頸部ナデ	口縁端部に櫛描波状文。口縁部内面に櫛描 列点文と乳頭状突起。頸部外面に凹線文3 条。	
13	中形広口壺	器高(残存高):5.8cm 口徑(復元径):10.0cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート、赤 色粒含む	良好	外面:10YR7/2にぶい黄褐色 内面:10YR8/2灰白色	外面:口縁部ナデ 頸部ヘラミガキ 内面:口頸部ナデ	口縁端部に凹線文4条。口縁部内面に櫛描文 羽状文と円形浮文(1対)。	
14	中形広口壺	器高(残存高):9.8cm 口徑(復元径):24.0cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート含む	良好	外面:7.5YR6/6褐色 内面:7.5YR8/3浅黄褐色	外面:口縁部ナデ 頸部縦位のヘラミガキ 内面:口縁部ヨコハケ 頸部ナデ	口縁端部に凹線文4条。口縁部内面に櫛描文 列点文2帯。頸部外面に櫛描波状文1帯、凹 線文4条。	
15	中形広口壺	器高:20.9cm 口徑:11.1cm 胴部最大径:17.6cm 底径:4.6cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート、金 雲母含む	良好	外面:10YR7/2 にぶい黄褐色 内面:10YR7/2 にぶい黄褐色	外面:口縁部ナデ 頸部~胴部縦位のヘラミガキのち部分的に 横位のヘラミガキ 内面:口頸部ナデ 胴部ハケ	口縁端部に櫛描波状文。頸部~胴部上半外 面に櫛描直線文6帯。	
16	中形広口壺	器高:21.1cm 口徑(復元径):14.0cm 胴部最大径(復元径):17.6cm 底径(復元径):7.2cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート、金 雲母含む	良好	外面:10YR7/3 にぶい黄褐色 内面:10YR7/3 にぶい黄褐色	外面:口縁部ナデ 頸部~胴部上半ハケ 胴部下半縦位のヘラミガキのち横位のヘラミガキ 内面:口縁部~胴部ナデ	口縁端部に櫛描波状文。頸部~胴部上半外 面に櫛描直線文5帯、櫛波状文1帯。	
17	中形広口壺	器高(復元高):27.1cm 口徑(復元径):13.8cm 胴部最大径(復元径):24.0cm 底径(復元径):5.8cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート含む	良好	外面:10YR8/3浅黄褐色 内面:10YR5/1褐灰色	外面:口縁部ナデ 頸部~胴部上半ハケ 内面:口頸部ナデ 胴部上半ハケのちナデ	口縁端部に櫛波状文。口縁部内面に櫛描列 点文。頸部に櫛描文兼状文1帯。胴部上半に 櫛描波状文4帯と櫛描波状文1帯に施す。	
18	中形広口壺	器高(残存高):16.9cm 口徑(復元径):13.6cm 胴部最大径(復元径):20.6cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート、金 雲母含む	良好	外面:10YR7/3 にぶい黄褐色 内面:10YR5/1褐灰色	外面:口縁部ナデ 頸部~胴部上半ハケ 胴部下半縦位のヘラミガキ 内面:口頸部ナデ 胴部ハケのちナデ	口縁端部に櫛描波状文。口縁部内面に櫛描 波状文と乳頭状突起(1対)。頸部~胴部上半 外面に櫛描直線文6帯と櫛描波状文1帯。	
19	中形広口壺	器高(残存高):14.9cm 口徑(復元径):13.9cm 胴部最大径(復元径):11.2cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート含む	良好	外面:10YR7/3にぶい黄褐色 内面:10YR8/3浅黄褐色	外面:口頸部ナデ 胴部ハケ 内面:口頸部ナデ 胴部ハケのちナデ	口縁端部に櫛描波状文。口縁部内面に櫛描 波状文。頸部~胴部上半外面に櫛描直線文3 帯と櫛描波状文3帯を交互に施す。	
20	中形広口壺	器高(復元高):27.1cm 口徑(復元径):13.8cm 胴部最大径(復元径):24.0cm 底径(復元径):5.3cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート含む	良好	外側:10YR8/2灰白色 内面:10YR8/2灰白色	外面:口縁部ナデ 頸部~胴部上半ハケ 胴部下半ナデ 内面:口頸部ナデ 胴部ハケ	口縁端部に櫛描波状文。口縁部内面に櫛描 列点文。頸部~胴部上半外面に櫛描波状文3 帯と櫛描直線文3帯を交互に施す。	
21	中形広口壺	器高:28.3cm 口徑:13.5cm 胴部最大径:22.4cm 底径:6.4cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート含む	良好	外側:10YR8/2灰白色 内面:10YR8/2灰白色	外面:口縁部ナデ 頸部~胴部上半ハケ 胴部下半縦位のヘラミガキ 内面:口頸部ナデ 胴部ハケ	口縁端部に櫛描波状文。口縁部内面に櫛描 波状文。頸部~胴部上半外面に櫛描波状文5 帯と櫛描直線文4帯を交互に施す。	
22	中形広口壺	器高(復元高):28.0cm 口徑(復元径):17.0cm 胴部最大径(復元径):20.8cm 底径(復元径):6.6cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート、赤 色粒含む	良好	外側:10YR8/2灰白色 内面:10YR5/1褐灰色	外面:口縁部ナデ 頸部~胴部上半ハケ 胴部下半平タタキのち縦位のヘラミガキ 内面:口頸部ナデ 胴部ハケ	口縁端部に櫛描波状文。口縁部内面に櫛描 列点文と乳頭状突起(2対)。頸部外面に櫛描 波状文と凹線文2条。胴部上半外面に櫛描波 状文4帯と櫛描直線文3帯を交互に施す。	
23	中形広口壺	器高(復元高):28.4cm 口徑:18.5cm 胴部最大径:22.0cm 底径:6.0cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート含む	良好	外側:7.5YR8/2灰白色 内面:7.5YR8/2灰白色	外面:口縁部~胴部上半ハケ 胴部下半縦位のヘラミガキのち横位のヘラミガキ 内面:口頸部ナデ 胴部ハケ 底部指オサエ	口縁端部に櫛描波状文。口縁部内面に櫛描 列点文と乳頭状突起(1対)。頸部外面に凹線 文2条。胴部上半外面に櫛描波状文4帯と櫛 描直線文4帯を交互に施す。	
24	大形広口壺	器高(残存高):29.0cm 胴部最大径(復元径):31.8cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート、赤 色粒含む	良好	外面:10YR8/2灰白色 内面:10YR8/2灰白色	外面:頸部ヘラミガキ 胴部ナデ 内面:頸部ナデ 胴部ハケ	頸部外面に凹線文6条。胴部上半外面に櫛描 直線文6帯と櫛描波状文6帯を交互に施す。	
25	大形広口壺	器高(復元高):36.0cm 口徑(復元径):22.0cm 胴部最大径(復元径):29.6cm 底径(復元径):7.8cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート、赤 色粒含む	やや不良	外面:5YR7/6褐色 内面:7.5YR8/3浅黄褐色	外面:口縁部ナデ 頸部縦位のヘラミガキ 胴部上半ハケ 胴部下半縦位のヘラミガキ 内面:口頸部ナデ 胴部ハケ	口縁端部に櫛描波状文。口縁部内面に櫛描 屈状文。胴部上半外面に櫛描直線文3条と櫛 描波状文1条。	
26	大形広口壺 (搬入品か)	器高(復元高):40.1cm 口徑(復元径):28.0cm 底径(復元径):8.4cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、赤色粒含む	やや不良	外面:5YR7/4にぶい褐色 内面:7.5YR7/4にぶい褐色	外面:口縁部ヨコハケ 胴部ハケ 胴部上半ハケ 胴部下半ヘラミガキ 内面:口縁部ヨコハケ 頸部ナデ 胴部ハケ	口縁端部に凹線文3条。口縁部内面にヘラ指 羽状文。頸部に断面三角形貼付突等文。	丹後地域からの搬入 品か。

表2 南垣内遺跡遺物観察表

番号	器種	法量	胎土	焼成	色調	調整	文様	備考
27	無文広口壺	器高:26.2cm 口径:13.0cm 胴部最大径:20.6cm 底径:5.4cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、金雲母含む	良好	外面:7.5YR5/1褐灰色 内面:7.5YR8/4浅黄褐色	外面:口縁部ナデ 頸部ハケ 胴部上半水平タタキのちハケ 胴部下半水平タタキのちヘラケズリのち縦位のヘラミガキ 内面:口縁部~胴部ナデ		
28	広口細頸壺	器高(残存高):4.3cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、金雲母含む	良好	外面:7.5YR5/4にぶい褐色 内面:10YR7/4にぶい褐色	外面:胴部上半ナデ 内面:胴部上半ナデ	胴部上半に櫛描簾状文4帯。	
29	広口細頸壺 (搬入品)	器高(復元高):27.4cm 口径:11.2cm 胴部最大径:20.8cm 底径(復元径):6.8cm	0.1~1.0mmの角閃 石、石英、長石、金 雲母、赤色粒含む	良好	外面:10YR5/3にぶい黄褐色 内面:10YR6/3にぶい黄褐色	外面:口縁部~胴部上半ナデ 胴部下半縦位のヘラミガキのち横位のヘラミガキ 内面:口縁部~胴部ナデ	口縁端部に櫛描簾状文。口縁部内面に円形 浮文(刺摩)。頸部~胴部上半に櫛描簾状文 10帯のち円形浮文帯2帯。	生駒山西麓地域から の搬入品。
30	広口壺 (搬入品)	器高(残存高):32.2cm 口径:13.6cm 胴部最大径:23.2cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、赤色粒含む	良好	外面:10YR7/3にぶい黄褐色 内面:10YR7/2にぶい黄褐色	外面:口縁部ナデ 頸部ハケ 胴部上半ハケのちナデ 胴部下半ハケ 内面:口縁部~胴部ナデ	口縁端部に刻目文のち棒状浮文4点。口縁 部下に斜線状のヘラ描文。胴部上半に櫛描 波状文4条と斜格子状のヘラ描文。	近江地域以東からの 搬入品。
31	直口壺	器高(残存高):4.8cm 口径:12.7cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、赤色粒含む	良好	外面:7.5YR7/4にぶい褐色 内面:5YR7/4にぶい褐色	外面:口縁部~胴部ナデ 内面:口縁部~胴部ナデ	口縁部外面に刻目断面三角形貼付突帯文の ち櫛描簾状文3帯。	
32	直口壺	器高(残存高):5.9cm 口径:7.9cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート、赤 色粒含む	良好	外面:7.5YR7/4にぶい褐色 内面:7.5YR8/4浅黄褐色	外面:口縁部~胴部ナデ 内面:口縁部~胴部ナデ	口縁部外面に凹線文5条。	
33	細頸壺	器高(残存高):8.0cm 口径(復元径):9.2cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート、金 雲母含む	良好	外面:10YR7/2にぶい黄褐色 内面:10YR7/2にぶい黄褐色	外面:口縁部ナデ 頸部ハケ 内面:口縁部ナデ 頸部ハケのちナデ	口縁部外面に凹線文4条。頸部外面に櫛描波 状文1帯と櫛描直線文2帯。	
34	細頸壺	器高(残存高):9.4cm 口径(復元径):10.2cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート、赤 色粒、金雲母含む	良好	外面:7.5YR7/6褐色 内面:7.5YR8/4浅黄褐色	外面:口縁部ナデ 頸部ハケ 内面:口縁部ヨコナデ 頸部ナデ	口縁部外面に凹線文4条。	
35	細頸壺	器高(残存高):27.8cm 口径:9.8cm 胴部最大径:26.8cm	0.1~3.0mmの石英、 長石、チャート、赤 色粒含む	良好	外面:10YR8/2灰白色 内面:10YR8/2灰白色	外面:口縁部ヨコナデ 頸部~胴部上半ハケ 内面:口縁部ヨコナデ 頸部~胴部上半ハケのちナデ	口縁部外面に凹線文4条。頸部~胴部上半外 面に櫛描直線文11帯と櫛描波状文1帯。	
36	台付細頸壺	器高:30.5cm 口径:5.4cm 胴部最大径:17.8cm 底径:10.0cm	0.1~2.0mmの石英、 長石、チャート、金 雲母、赤色粒含む	良好	外面:10YR8/2灰白色 内面:10YR8/1灰白色	外面:口縁部~胴部上半ナデ 胴部下半ヘラミガキ 柱状部縦位のヘラミガキ 裾部ナデ 内面:口縁部~胴部ナデ 胴部ハケのちナデ 柱状部ヘラケズリ 裾部ナデ	口縁部~胴部上半外面に櫛描直線文21帯及 び部分的に横位のヘラミガキのち、縦位の ヘラミガキ(6条1単位)及び円形浮文帯1帯。 柱状部外面にヘラ描直線文8条。	
37	無頸壺	器高(残存高):5.7cm 口径:8.8cm 胴部最大径:11.0cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、赤色粒含む	良好	外面:10YR7/3にぶい黄褐色 内面:10YR7/3にぶい黄褐色	外面:口縁部ナデ 胴部上半ナデ 内面:口縁部ナデ 胴部上半ハケのちナデ	胴部上半外面に櫛描波状文1帯と櫛描直線文 2帯、櫛描列点文1帯。	
38	台付無頸壺	器高:13.8cm 口径:11.2cm 胴部最大径:15.2cm 底径:8.0cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、赤色粒含む	良好	外面:7.5YR8/3浅黄褐色 内面:5YR7/4にぶい褐色	外面:口縁部ナデのち境成前穿孔(1ヶ所) 胴部上半ナデ 胴部下半横位のヘラミガキ 脚柱部縦位のヘラミガキ 裾部ヨコナデ 内面:口縁部~胴部下半ハケのちナデ	胴部上半外面に櫛描直線文6帯と列点文1帯 (櫛描直線文は帯に施し部分的に重なる。)	
39	有段口縁壺	器高(残存高):8.0cm 口径(復元径):9.6cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、赤色粒含む	良好	外面:7.5YR7/4にぶい褐色 内面:7.5YR7/6褐色	外面:口縁部ナデ 頸部ハケ 内面:口縁部ナデ	口縁部外面に凹線文4条。頸部外面に指頭圧 痕貼付突帯文。	
40	有段口縁壺	器高(復元高):44.8cm 口径:18.2cm 胴部最大径:31.4cm 底径:12.8cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、金雲母含む	良好	外面:7.5YR7/4にぶい褐色 内面:7.5YR7/3にぶい褐色	外面:口縁部ナデ 頸部ハケ 胴部上半左上がりタタキのち水平タタキのちハケ 胴部下半ハケのちヘラケズリ 内面:口縁部ヨコハケ 頸部~胴部ハケのちナデ	口縁部外面に凹線文1条。頸部外面にハケ列 点文。	
41	壺底部	器高(残存高):2.8cm 底径(復元径):5.8cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート含む	良好	外面:10YR8/4浅黄褐色 内面:10YR4/1褐灰色	外面:胴部下半縦位のヘラミガキ 底面ナデ 内面:胴部下半ハケのちナデ		
42	壺底部	器高(残存高):2.1cm 底径(復元径):6.2cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート含む	良好	外面:2.5YR2灰白色 内面:2.5YR3淡黄褐色	外面:胴部下半縦位のヘラミガキ 底面ナデ 内面:胴部下半ナデ		
43	壺底部	器高(残存高):4.4cm 底径(復元径):6.0cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート含む	良好	外面:10YR8/2灰白色 内面:2.5Y5/1黄灰色	外面:胴部下半縦位のヘラミガキ 底面ナデ 内面:胴部下半ハケのちナデ		
44	壺底部	器高(残存高):4.6cm 底径(復元径):5.0cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート含む	良好	外面:10YR8/4浅黄褐色 内面:10YR4/1褐灰色	外面:胴部下半縦位のヘラミガキか 底面ナデ 内面:胴部下半ナデ		摩滅により詳細な調 整不明。
45	壺底部	器高(残存高):4.1cm 底径(復元径):6.2cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート、金 雲母含む	良好	外面:7.5YR8/6浅黄褐色 内面:7.5YR8/6浅黄褐色	外面:胴部下半縦位のヘラミガキ 底面ナデ 内面:胴部下半ハケ		
46	壺底部	器高(残存高):5.8cm 底径(復元径):8.2cm	0.1~2.0mmの石英、 長石、チャート、赤 色粒含む	良好	外面:10YR8/4浅黄褐色 内面:10YR5/1褐灰色	外面:胴部下半摩滅により詳細不明 内面:胴部下半摩滅により詳細不明		摩滅により詳細な調 整不明。
47	壺底部	器高(残存高):11.5cm 底径(復元径):7.4cm	0.1~4.0mmの石英、 長石、チャート、金 雲母含む	良好	外面:10YR7/4にぶい黄褐色 内面:10YR7/8黄褐色	外面:胴部下半縦位のヘラミガキ 底面ナデ 内面:胴部下半ハケのちナデ		
48	高坏	器高(復元高):19.4cm 口径:27.8cm 底径(復元径):14.2cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート、黒 雲母含む	良好	外面:5YR8/4淡褐色 内面:7.5YR8/4浅黄褐色	外面:口縁部ナデ 坏部ヘラミガキ 柱状部縦位のヘラミガキ 裾部ヨコナデ 内面:口縁部ナデ 坏部ヘラミガキ 柱状部シボリ 裾部ヘラケズリ	口縁端部に凹線文2条。	円蓋充填技法使用。
49	脚台部	器高(残存高):6.0cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート、赤 色粒含む	良好	外面:10YR7/4にぶい黄褐色 内面:10YR7/3にぶい黄褐色	外面:脚柱部ヘラミガキ 内面:脚柱部シボリ		
50	脚台部	器高(残存高):5.1cm 底径:7.7cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、赤色粒含む	良好	外面:10YR8/2灰白色 内面:10YR8/2灰白色	外面:脚柱部ヘラミガキ 裾部ヨコナデ 内面:脚柱部ヘラケズリ 裾部ヨコナデ		円蓋充填技法使用。
51	脚台部	器高(残存高):6.2cm 底径:10.8cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート赤色 粒含む	やや不良	外面:10YR6/2灰黄褐色 内面:10YR4/1褐灰色	外面:脚柱部ヘラミガキ 裾部ヨコナデ 内面:脚柱部ナデ 裾部ヨコナデ		円蓋充填技法使用。
52	甕	器高:32.3cm 口径:21.0cm 体部最大径:26.2cm 底径:6.6cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、金雲母、赤色 粒含む	良好	外面:7.5YR7/3にぶい褐色 内面:10YR7/3にぶい黄褐色	外面:口縁部ヨコナデ 体部上半水平タタキのちハケ 体部下半ヘラケズリ 底面ナデ 内面:口縁部ヨコナデ 体部ハケのちナデ	口縁端部に凹線文1条及び刻目文2帯。頸部 外面に列点文1帯。胴部上半外面に列点文2 帯。	近江地域からの搬入 品か。
53	甕	器高(残存高):1.8cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、金雲母、赤色 粒含む	良好	外面:7.5YR6/2灰褐色 内面:7.5YR8/3浅黄褐色	外面:口縁部ヨコナデ 内面:口縁部ヨコナデ	口縁端部に斜線状のヘラ描文。	近江地域からの搬入 品か。
54	甕	器高(復元高):29.6cm 口径(復元径):16.7cm 体部最大径(復元径):24.7cm 底径(復元径):6.4cm	0.1~2.0mmの石英、 長石、チャート、赤 色粒含む	良好	外面:7.5YR8/2灰白色 内面:10YR8/2灰白色	外面:口縁部ヨコナデ 体部上半ハケ 体部下半ヘラケズリ 底面ナデ 内面:口縁部ヨコナデ 体部上半ハケのちナデ 体部下半ナデ	口縁端部に凹線文1条。体部上半外面に列点 文1帯。	体部外面に炭化物付 着。
55	甕	器高(残存高):16.7cm 口径(復元径):32.9cm 体部最大径(復元径):31.2cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、金雲母、赤色 粒含む	良好	外面:10YR7/4にぶい黄褐色 内面:10YR8/2灰白色	外面:口縁部ヨコナデ 体部上半ハケ 内面:口縁部ヨコナデ 体部上半ハケのちナデ	口縁端部に凹線文2条及び刻目文。	体部上半外面に炭化 物付着。
56	甕底部	器高(残存高):10.6cm 底径(復元径):5.0cm	0.1~1.0mmの石英、 長石、チャート、赤 色粒含む	良好	外面:10YR7/2にぶい黄褐色 内面:2.5YR6/1黄灰色	外面:体部下半ヘラケズリのちハケ 底面ナデ 内面:体部下半ナデ		体部下半外面に炭化 物付着。